

英語語法文法学会 第24回大会資料

日時：2016年10月22日（土）

開催校：奈良大学

住所：〒631-8502 奈良市山陵町1500
<http://www.nara-u.ac.jp/>

順路：近鉄京都線「高の原」駅下車、奈良交通バス「奈良大学構内」行き（終点）、または「学園前駅」行き（「奈良大学」下車）約5分。あるいは、「高の原」駅より徒歩約18分、タクシー約5分。

- 京都駅からは
近鉄京都線「高の原」駅まで急行で約36分。
- 大阪駅からは
JR環状線（外回り）で鶴橋駅へ（約15分）、同駅にて乗り換え、近鉄奈良線で「大和西大寺」駅まで快速急行・急行で約25分、同駅にて乗り換え、近鉄京都線で「高の原」駅まで急行・普通で約5分。
- 大阪難波駅からは
近鉄奈良線で「大和西大寺」駅まで快速急行・急行で約30分、同駅にて乗り換え、近鉄京都線で「高の原」駅まで急行・普通で約5分。

英語語法文法学会

The Society of English Grammar & Usage

September 2016

英語語法文法学会

第 24 回大会プログラム

大会参加費：学会会員 1,000 円／当日会員 一般 2,500 円 学生 2,000 円（予稿集代を含む）

日 時：2016 年 10 月 22 日（土）

<学内の食堂・喫茶・売店が利用可能です。コンビニは高の原駅内のコンビニが便利です。>

開催校：奈良大学

住所：〒631-8502 奈良市山陵町1500
<http://www.nara-u.ac.jp/>

開催校委員：内田聖二、西出公之、山本尚子

大会実行委員：林龍次郎（委員長）、滝沢直宏（副委員長）、五十嵐海理、吉良文孝、
住吉 誠、西田光一、松村瑞子

- ワークショップ（C 教室棟 2 階 201）●研究発表（C 教室棟 2 階 201、202）●総会（C 教室棟 1 階 102）●シンポジウム（C 教室棟 1 階 102）●一般休憩室（C 教室棟 1 階 101）
- 書籍展示（C 教室棟 2 階 205）●司会者・関係者（ワークショップ・研究発表・シンポジウム発表者）控え室（C 教室棟 1 階 103）●大会本部・運営委員会室（C 教室棟 2 階 206）
- アルバイト控え室（C 教室棟 1 階 106）

受付：10 時 00 分より C 教室棟 2 階テラス

ワークショップ（C 教室棟 2 階 201） 10.30 – 11.38

司会 松村瑞子（九州大学）

- 「いわゆる「同格」節における that の省略」金子輝美（元・愛知淑徳大学非常勤）
- 「当為を表す HAD BETTER—SHOULD との比較とともに」
小澤賢司（日本大学）
- 「We've never had trouble in finding red foxes. の *finding* は動名詞か？」
桑名保智・三好暢博・戸塚 将（旭川医科大学）
- 「Singular *they* の記述的考察」
大野真機・吉川裕介（昭和大学）

受付：12時30分より C教室棟2階テラス

研究発表 13.00 – 14.45

第1室 (C教室棟2階201)

司会 出水孝典 (神戸学院大学)

1. 13.00 – 13.35 「There 構文再考：下位講文と主語名詞」
三野貴志 (大阪大学大学院)
2. 13.35 – 14.10 「“Belle looks a girl.” が使用される時：連結的知覚構文の補語に関する制約」
板垣浩正 (大阪大学大学院)
3. 14.10 – 14.45 「はねかえりの off：前置詞 off の意味に関する認知意味論的考察」
植田正暢 (北九州市立大学)

第2室 (C教室棟2階202)

司会 牛江一裕 (埼玉大学)

1. 13.00 – 13.35 「far from it の語法」 明日誠一 (青山学院大学非常勤)
2. 13.35 – 14.10 「as if 独立節の意味と機能について」 井上 徹 (成城大学)
3. 14.10 – 14.45 「英語の意味内容の豊かな名詞句の同一指示用法と対話の定式化」 西田光一 (下関市立大学)

総会 (C教室棟1階102) 15.00 – 15.20

総合司会		吉良文孝	(日本大学)
開会の辞	会 長	大室剛志	(名古屋大学)
開催校代表挨拶		田中文憲	(奈良大学教養部長)
学会賞選考報告	会 長	大室剛志	(名古屋大学)
事務局報告	事務局長	吉田幸治	(近畿大学)

シンポジウム (C教室棟1階102) 15.35 – 17.45

テーマ 「Spoken English と Written English をめぐって」

司会 内田聖二 (奈良大学)

1. 「Spoken English における構造的な特徴について」 澤田茂保 (金沢大学)
2. 「ダイクシス、あるいは時間・場所・人称の一致について」 内田聖二 (奈良大学)
3. 「コーパスでできること一量的分析の深化から質的分析へ」

赤野一郎 (京都外国語大学名誉教授)

コメンテーター 八木克正 (関西学院大学名誉教授)

閉会の辞 西出公之 (奈良大学)

懇親会 喫茶ならやま (E棟1F) 18.00 – 19.30

(懇親会費：一般 5,000 円 学生 3,000 円)

いわゆる「同格」節における that の省略

金子輝美 (元・愛知淑徳大学非常勤)

昨秋の本学会 (2015/10/24) で、濱松氏は名詞のいわゆる「同格」節に関する国内外の諸説を詳細に検討し、独自の見解を発表された。提示された暫定的結論は、次のように要約されると思われる。

- ・名詞句に後続する that 節は、文字通り同格である場合と、名詞句の補文である場合がある。非派生名詞は同格節を伴うが、動詞形の項構造を引き継ぐ性質をもつ派生名詞は補文を取る。同格の that 節の that は省略される場合があるが、that 節が補文である場合は that の省略は許されない。

この発表では、that 省略の可否に関する上掲の見解は、現代英語の省略現象の実態とは必ずしも合致しないことを例証する。派生名詞と非派生名詞、同格と補文の区分を超えて、that の省略 (脱落) 現象が見られるという事実を語法研究の一資料として提示し、大方の参考に供することができれば、発表者の意の大半は達せられる。同格とは何かについては、諸家の見解が分かれるところである。なぜ that が省略されることがあるのか。その原理を求めることは重要なことであるが、現在の発表者にとっては難問である。この機会を今後の研究のための出発点にしたい。なお、本発表は生成文法の研究手法そのものを批判することを目的にしない。

当為を表す HAD BETTER—SHOULD との比較とともに

小澤賢司 (日本大学)

本発表では、当為 (= 「(な) すべきこと」) を表す HAD BETTER の意味特徴を精査し、同じく当為を表す SHOULD との違いを比較、考察する。

例えば、次の例が示すように、両者は使用環境が異なる。

- (1) You {*had better/should*} always look carefully at your map afterwards so you can see what's what's [sic] that area. (Collins 2009: 79)

- (2) He {*had better/should*} tell her but I don't suppose he will.

(Huddleston and Pullum 2002: 196)

HAD BETTER が表す意味は非常に強く、しばしば「悪い結果」を暗示するとされるが、その意味特徴だけでは上記の不適合性を説明することができない。

また、(特に省略形で) HAD BETTER が「悪い結果」を暗示せず、単なる助言を表す場合もある。さらに、HAD BETTER はその言語形式に反して、単に than 節を後続させることができない。

- (3) You two *better* change into your robes. I expect we'll be arriving soon.

(*Harry Potter and the Philosopher's Stone*)

- (4) *We *had better* get a takeaway *than* start cooking now.

(Denison and Cort 2010: 355)

We've never had trouble in finding red foxes. の *finding* は動名詞か？

桑名保智・三好暢博・戸塚 将 (旭川医科大学)

本稿の目的は、後期近代英語から現代英語にかけて使用されるようになってきた (1a) 型構文の対応表現とされる (1b) 型構文の現在生じている変容の記述を行うことを目的とする。

(1) a. I had no trouble communicating with her mother.

b. I had no trouble in communicating with her mother.

先行研究における主たる関心事は、(1a) の V-ing の性質であり、(1b) の V-ing が動名詞であるという仮説を暗黙の前提としてきた。本稿では、この前提を検証することを出発点とする。名詞性の強い動名詞が (1b) の前置詞 *in* に後続できない等の事実に基づき、当該の前置詞の形式機能がすでに変容を遂げている可能性を指摘する。さらに、(1b) の V-ing が部分的ないしは不完全な節としての機能を有している可能性を論ずる。その上で、現在起こっている変化や文法格の扱いについての考察を行う。

Singular *they* の記述的考察

大野真機・吉川裕介 (昭和大学)

次の例文に見られる '*they*' の用法は一般に singular *they* と呼ばれており、2015年にはアメリカ方言学会により the Word of the Year に選出されるなど、この表現への関心は高まっている。

(1) Everyone_i thinks **they**_i have the answer.

(2) A researcher_i has to be completely objective in **their**_i findings.

単数用法としての *they* の使用はすでに16世紀の文献に見られるが、昨今の性的マイノリティをめぐる人々の関心や意識の変化によりその使用が動機付けられる単数用法の *they* は時に gender-neutral singular *they* として区別され、また新たな形態を生み出している。

(3) This is the first step in helping someone_i to help **themselves**.

(4) They could be men_i. They could be women_j. They could be **theys**_iあるいは *i+j*.

本発表では、文化・社会的な要因によりその使用が動機付けられている (gender-neutral) singular *they* がどの程度英語の文法規則に取り込まれているのかを付加疑問文形成等を通して検討し、これまで φ 素性として一括りにされてきた素性らが、実は別々のレベルで働くこと、つまり number は syntax の問題で、gender は semantics の問題であると主張する。

There 構文再考：下位構文と主語名詞

三野貴志 (大阪大学大学院)

本発表では存在のthere構文の意味上の主語にはどのような種類の名詞が生起しやすいかを分析する。中右 (1998) は、はだか存在文とは異なりthere構文の意味上の主語には有形・無形の両方が生起すると主張している。また、Bolinger (1977) は「モノの導入 (bring something into awareness)」という規定をthere構文に対して行っている。その規定を一步進めるため、本発表では主としてCOMEを用いたthere構文をCOCAで調査し、他の動詞を用いたthere構文と比べて「導入」の意味のメタファー拡張が進んでいることを指摘する。

同時に、There COMEという形式をとるthere構文には二つの下位構文が存在することを主張する。この下位構文は、(1)のように現在時制では「時間表現構文」、過去時制では「音表現構文」と、時制で分けられる。特徴としては、時間表現構文は、意味上の主語に義務表現を含む埋め込み節を伴う場合が多い。一方、音表現構文は、主語のタイプ頻度が高く、小説などで好まれる。

(1) a. There comes a time when you have to lose weight.

b. There came a loud noise from outside. [COCA]

最終的には、時制に焦点をあてた本there構文の分析から、構文研究に対してより細やかな検討基準を与える必要性について述べる。

“Belle looks a girl.” が使用される時：連結的知覚構文の補語に関する制約

板垣浩正 (大阪大学大学院)

本発表は、(1)にある連結的知覚動詞構文と呼ばれる知覚対象を主語に置く知覚動詞の用法について、とりわけ動詞 look における補語の特徴を精査する。

(1) a. John looks happy.

b. This cake tastes good. (Taniguchi 1997: 270)

この構文の補語の制約に関して、先行研究 (cf. Nakamura 2010, Gisborne 2010) では段階性 (Gradability) を持つ補語でなければならないと主張する。確かに、この構文の補語に生じる語句は典型的には段階的形容詞などであるが、(2)のように段階性を持たない形容詞でもこの構文にそれなりに現れるため、この主張は必ずしも当該構文を包括的に説明しているとは言えない。

(2) The house looks empty. (Quirk et al. 1985: 203)

従って本研究では、周辺的事例である段階性を持たない語が、どのような条件でこの構文の補語に生起できるのかを、動詞 look に絞って記述していく。結果として、動詞 look の意味に影響を受けることで生じた(i)外見を証拠に主語の属性・状態を推測する場合と、当該構文の典型例に沿うようにして、(ii)非段階的語句が段階的表現として強制・再解釈される場合という二つに類別できることを主張する。

はねかえりの off : 前置詞 off の意味に関する認知意味論的考察

植田正暢 (北九州市立大学)

移動するものがある場所で衝突し、元の方向に戻る事態がある。このような事態を<はねかえり>と呼ぶ。この事態を表す前置詞としてすぐに思いつくのが、(1a)に示す *against* であると思われるが、(1b) のように、同じ事態を *off* で表現することも可能である。

(1) a. Simply throw the ball against the wall and field it.

b. Simply throw the ball off the wall and field it.

前置詞 *off* は、基点となる場所から離れている・いく事態 (以下、<基点からの離脱>という) を中心義とするとされるが、なぜこの前置詞が<はねかえり>を表すことができるのか。また<はねかえり>の *off* はこの前置詞の多義構造のなかでどのように位置づけられるのか。本発表では以上の 2 点を考察し、最終的に、<はねかえり>は<基点からの離脱>の変種であり、一般に思い浮かべる基点のとらえ方とは異なり、ものが衝突した地点を基点に据え、そこからの離脱を描いている表現であることを論じる。したがって、<はねかえり>が *off* にまったく新しい意義を付け加えるのではなく、移動の様態と<基点からの離脱>の合成にから得られる意味であることを示す。

司会 牛江一裕 (埼玉大学)

far from it の語法

明日誠一 (青山学院大学非常勤)

far from に関する先行研究は多いが、イディオムとしての far from it を中心に論じているものはない。発表者の蒐集した資料および COCA の検索結果の分析を通して、far from it の基本的な使い方 ((i) ~ (iii)) を指摘し、far from it の語法研究に寄与すると思われる 2 つの仮説 ((iv)、(v)) を提示する。

(i) 分布としては、

- a. 独立句として使われることが多い。
- b. 否定文の後で使われることが多い。

(ii) it は、「相手の主張」あるいは「談話内で提示されるある主張」を内容とする「命題」を指す。

(iii) far from it の機能上の特色としては、

- a. 主に、先行する否定文の意味を強調する。
- b. 補文の命題内容を話し手が明確に否定する場合に使われることもある。

(iv) イディオムとしての far from it は、It is far from it. から It is の部分が脱落した結果、生じたと考えられる。

(v) イディオム化の過程で、it が好まれた理由としては、事前の知識、際立ち、意図された内容の 3 つの要素が関係していると考えられる。

as if 独立節の意味と機能について

井上 徹 (成城大学)

as if 節は比較や様態を表す従属節として機能するのが一般的であるが、(1) のように主節を欠き、単独で現れることがある。

(1) As if she had not enough trouble in her early life without this coming upon her!

(L. M. Montgomery, *Rilla of Ingleside*)

このような as if 独立節について語法書や辞典は As if I cared! (=I don't care at all.) や As if you didn't know! (=You are pretending not to know.) のような否定を表す感嘆文の例をあげているが、用例を観察すると As if I care! (=Like I care!) のように現在形が使われているものや (2) のように客観的な描写を表す比喩表現になっており否定を表わさないものもあることがわかる。

(2) Janine said: May I sit down? As if it had all been too much for her. She had something to trade at last, for a token at least. (M. Atwood, *The Handmaid's Tale*)

本発表では、①as if 独立節と類似構文とされる It isn't as if 構文や感嘆詞としての As if! との関係、②as if 節内の時制、③If only ~ 節など Quirk et al. (1985) が “irregular sentences” と呼ぶ従属節が主節化した現象との関連などから、as if 独立節の意味と用法について考察し、主節化した as if 節の特徴を明らかにする。

英語の意味内容の豊かな名詞句の同一指示用法と対話の定式化

西田光一（下関市立大学）

本発表は、以下の下線部のように、主に報道の文脈で意味内容の豊かな名詞句が先行する指示表現と同一指示を表す事例を扱う。

- (1) Five days before Collins (=Jackie Collins) died on Sept. 19, the English-born novelist spoke to *People* at her Beverly Hills home, discussing her years-long battle with breast cancer ...
(*People* 2015 Yearbook, p.88)

この種の名詞句は主節主語の位置に偏って生じる。以前の拙論を発展させ、この種の名詞句の談話の情報構造を明らかにする(福地(1985)、Nishida (2008))。表面的に矛盾しているが、旧情報の主題を受けつつ、意味内容が濃い新情報を表す名詞句が生じる理由には、Clark (1993) の言う聴衆の設計 (audience design) があり、問題の名詞句の話し手 (筆者) は、What is she, and what did she do or say? といった聞き手 (読者) からの質問に答えるという対話を定式化していることを論じる。また、会話分析の知見 (Sacks (1992)) と指示の透明性の議論 (毛利 (1983)) を参考に、聞き手の理解を深める指示表現の言い換えは、談話内照応を担う名詞句に引き継がれることを示す。

シンポジウム (C 教室棟 1 階 102) 15.35 – 17.45

テーマ 「Spoken English と Written English をめぐって」

司会 内田聖二 (奈良大学)

コメンテーター 八木克正 (関西学院大学名誉教授)

ひとに特徴的な言語は、起源からみると、話しことばが書きことばに先行することは言うまでもない事実である。しかしながら、記述的な言語研究という観点からみると、文字資料に容易にアプローチできる書きことばが長い間分析の対象であったのに対し、話しことばの研究は録音機器、ビデオ機材等の発明、発展後にはじめて本格的な記述研究が可能になった。

この2つの「ことば」は一般的に、また、直観的にも、異なるとされる。本シンポジウムでは、焦点を当てられるのは限られた一部の言語現象ではあるが、spoken English と written English には違いがあるのか、あるとすれば、その違いは本質的なものなのか、あるいは同じ English として統一的に説明できる原理・原則があるのか、等を探ることを出発点としている。

「Spoken English における構造的な特徴について」では spoken English に、また、「ダイクシス、あるいは時間・場所・人称の一致について」では written English に軸足をおきながら話を進める。次に、spoken English と written English をコーパス上で比較することが可能になった現状を踏まえて、「コーパスでできること—量的分析の深化から質的分析へ」ではその両者をコーパスの観点から俯瞰する。また、以上の分析に対してコメンテーターから意見をいただく。

Spoken English における構造的な特徴について

澤田茂保 (金沢大学)

書きことばを中心にして構成された文法論から見ると、話しことばの構造は崩れていて、不完全であるという印象を与える。そのような印象を与える要因の一つに、ある種の文法的な構造の断片化がある。話しことばでは、通常文法論での正則的な階層構造が分断されて、その一部が断片的な形式として現れることがある。英語においては、例えば、(1) の斜字体で表されている形式である。

- (1) a. *I say*, Fowler, could you step in my office for a moment?
b. Don't laugh at me, *I'm telling you*.
c. *I ask you*, who's the smart one? Me or them?

斜字体部の一人称節は、前後の節構造と階層的な構造関係をもっているようには思えない。こういった断片化の現象は多岐にわたるが、原則として、対面の発話状況において発生する。そのため、断片化は話しことばの構造的な特徴の一つとなっている。

本発表では、とくに節の構造からの様々な断片化の現象を概観して、その背景となる原因について、聞き手を眼前においた発話である話しことばの原理からとらえたい。

ダイクシス、あるいは時間・場所・人称の一致について

内田聖二（奈良大学）

発話の場が密接にかかわるダイクシス現象は時間、場所、人称がその基本的な項目となる。話しことばでは発話時、場所、それに話し手、聞き手が明確に設定されるが、書きことば、とりわけ、フィクションを典型とするテキストでは、聞き手は読み手という形をとり、そこに書き手、語り手、登場人物が絡みあう。その上、発話時、場所もそれぞれの場面に応じてさらに複雑な様相を呈する。

従来、時制の一致は典型的な文法項目のひとつとして取り扱われてきた。一方、場所の副詞、人称については時制のような一致現象とは特にみなされてこなかった。また、spoken English と written English では、こういった文法事項はかなり異なった分布をすることは、引用現象ひとつをとってみても明らかである。たとえば、前者のレジスターではかなり奔放な引用がみられるのに対し、後者では語り、話法など特徴的な仕組みがある。

本発表では、これらのダイクシス現象を統一的に処理でき、同じ語用論的な原則で説明できる可能性を探りたい。

コーパスでできること—量的分析の深化から質的分析へ

赤野一郎（京都外国語大学名誉教授）

British National Corpus(BNC)に代表される、英語の全般の特徴を反映した「均衡コーパス」(balanced corpus)の整備と増加に伴い、英語のバラエティー研究はその量的分析の網羅性と精密さの点で、手作業によるデータ処理に基づく従来の分析を凌駕している。

本発表の目的は、英語のバラエティーの1つである spoken English と written English の差異分析にコーパスが有効であることを示すことである。最初に、コーパスに基づく研究事例(BNCにおける法助動詞の分布、学術分野間に見られるばかりし表現 sort of の分布と機能)を紹介し、文法項目や言語表現を「数える」と「数の意味づけ」について考える。次いで、written English で生起するとされる分詞構文をとりあげ、テキストを綿密に読み込む語法研究的アプローチとコーパスに基づく量的アプローチを併用することにより、分詞構文の基本的意味とテキストで果たす機能を明らかにし、分詞節の生起位置と基本的意味との間に相関関係があることを統計的に示す。

英語語法文法学会役員

名誉顧問	八木克正	安井 泉		
会長	大室剛志			
事務局長	吉田幸治			
会計	前川貴史			
会計監査委員	大竹芳夫			
運営委員	五十嵐海理	牛江一裕	内田聖二	梅咲敦子
	大橋 浩	大室剛志	吉良文孝	澤田茂保
	住吉 誠	滝沢直宏	中澤和夫	西田光一
	林龍次郎	松村瑞子	吉田幸治	
編集委員	中澤和夫 (編集委員長)			
	牛江一裕	大竹芳夫	大橋 浩	大室剛志
	金澤俊吾	吉良文孝	澤田茂保	滝沢直宏
	中山 仁	西田光一	林龍次郎	松村瑞子
	家口美智子	山岡 洋	吉田幸治	

発行日 2016年9月5日

編集・発行 英語語法文法学会

代表者 大室剛志

事務局 〒577-8502 大阪府東大阪市小若江 3-4-1

近畿大学経営学部 吉田幸治研究室内

Tel.: 06-4307-3365 (研究室) /

Fax: 06-6729-2493 (経営学部教養・基礎教育部門)

Email: segu.office@gmail.com

URL: <http://segu.sakura.ne.jp>

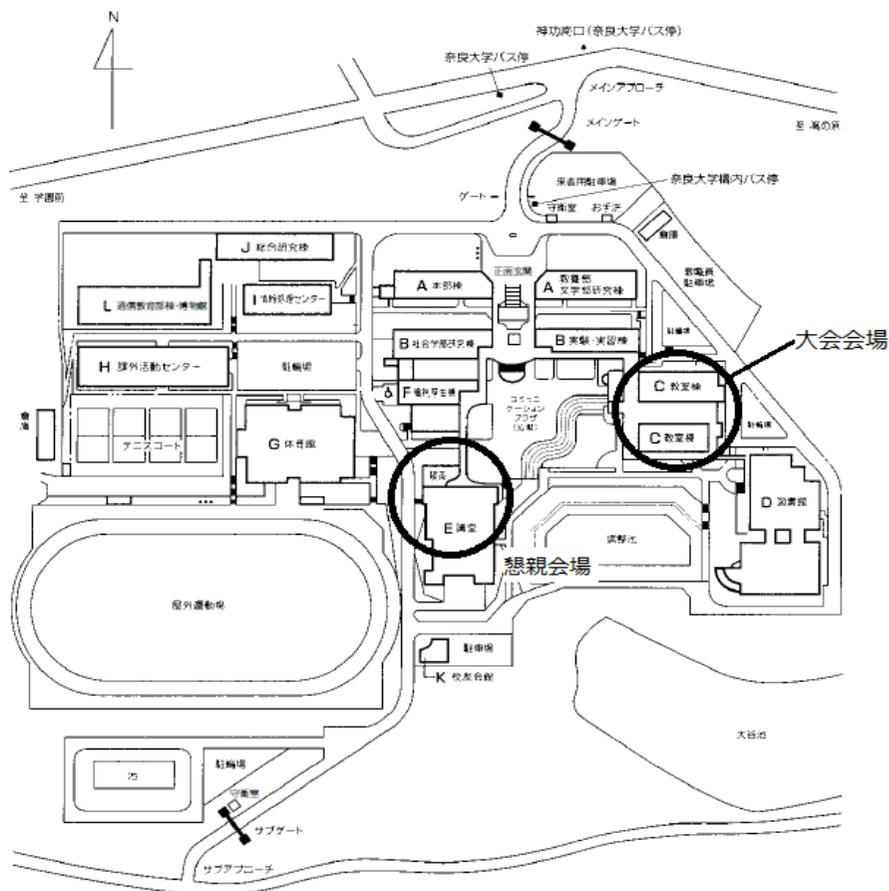
振替口座 02260-0-70393 英語語法文法学会

© 英語語法文法学会

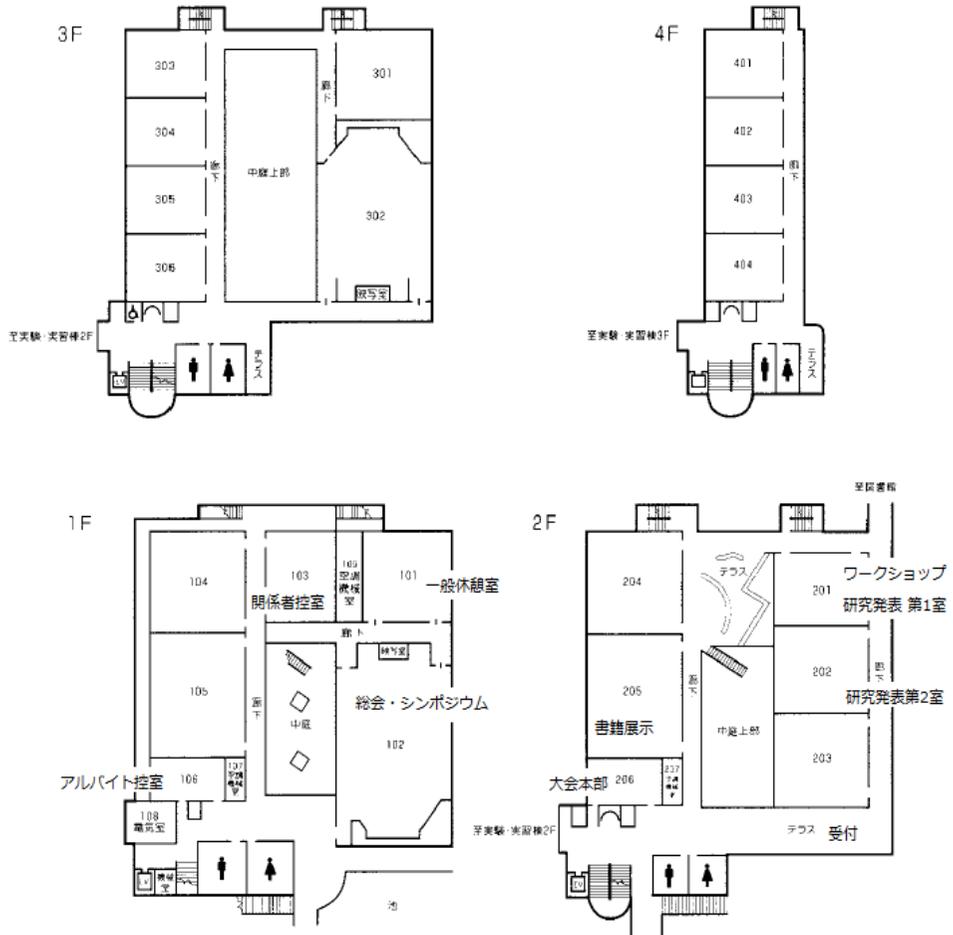
会場案内

C教室棟 1階・2階（ワークショップ、研究発表、総会、シンポジウム）、
E棟 1階（懇親会会場「喫茶ならやま」）

奈良大学学舎配置図



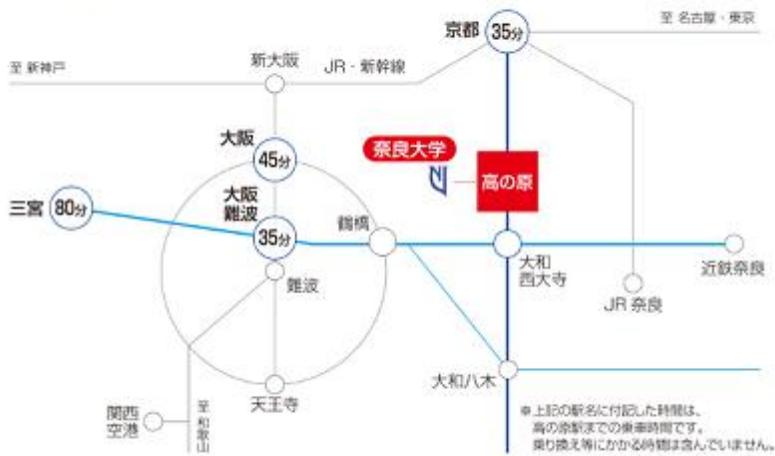
C 教 室 棟



※なお、大会当日は授業実施日でありますので、静粛な環境の保持にご協力をお願い致します。

※食堂等の営業時間：「学生食堂」 10:00-14:00
 「喫茶ならやま」 9:30-14:00
 「売店」 8:30-13:00（飲み物、パン、サンドイッチ等）

路線図



ルート別アクセス方法



奈良交通バス時刻表

(いき) 高の原駅から

「奈良大学構内」行き

「学園前駅」行き「奈良大学」下車

8:	39	1, 31
9:	22, 53	1, 31
10:	24	44
11:	(なし)	44
12:	7, 30, 53	44
13:	(なし)	44
14:	24	44
15:	7	44

(かえり) 高の原駅行き

奈良大学構内から

神功南口 (奈良大学) から

12:	20, 40	54
13:	17	54
14:	43	54
15:	17	54
16:	23	48
17:	2	27, 54
18:	10 (臨時便)	23, 53

※タクシー会社の電話番号：近鉄タクシー 0742-45-0091 / 0742-22-5501

服部タクシー 0120-22-5521

大学周辺地図



徒歩

近鉄「高の原」駅より、約18分。

バス

近鉄「高の原」駅より、奈良交通バス（1）番のりば「奈良大学構内」行に乗車約5分、

「奈良大学構内」下車、徒歩すく。

または「学園前駅」行に乗車約5分、「奈良大学」下車、徒歩約1分。

タクシー

近鉄「高の原」駅より、約5分。